

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)

～夢を抱き たくましく生きる力を育むために～

山武市教育委員会では、今後の学校規模の適正化と適正配置のあり方についての基本的な考え方をとりまとめた「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針」【素案】を平成27年2月に策定しました。

この基本方針について、保護者、地域の皆様を対象に「意見を聴く会」の開催、また、各園・小中学校ごとに「説明会」を開催し、意見交換を行なってまいりました。

平成27年11月、基本方針を成案とし、保護者及び地域の皆様との意見交換等の結果を踏まえ、統合の優先順位や年次計画等、今後の方向性をまとめた「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)」を策定しました。

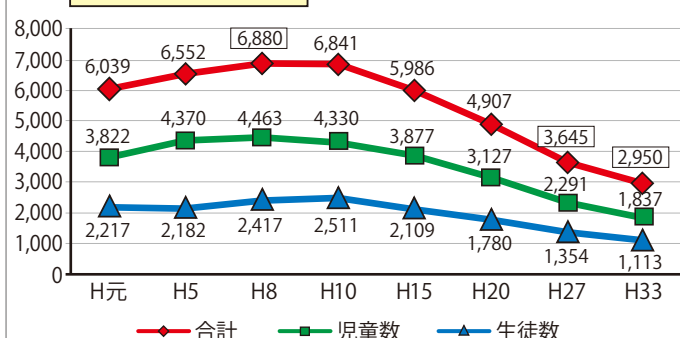
山武市教育委員会



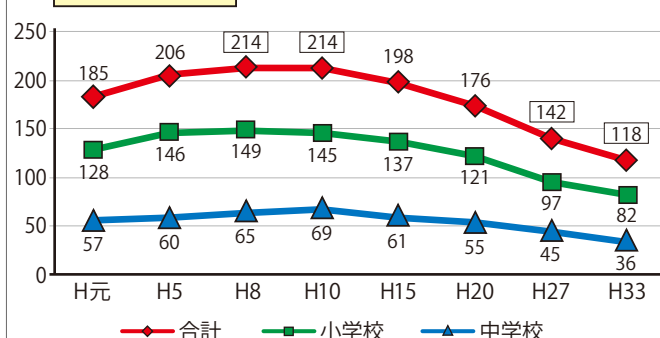
① 小中学校の現状と将来推計



児童生徒数の推移



学級数の推移



児童生徒数は、平成元年度からの推移から見ると、平成8年度の6,880人をピークに年々減少しています。また、学級数についても児童生徒数の減少に伴い年々減少しており、学校の小規模化が進んでいます。



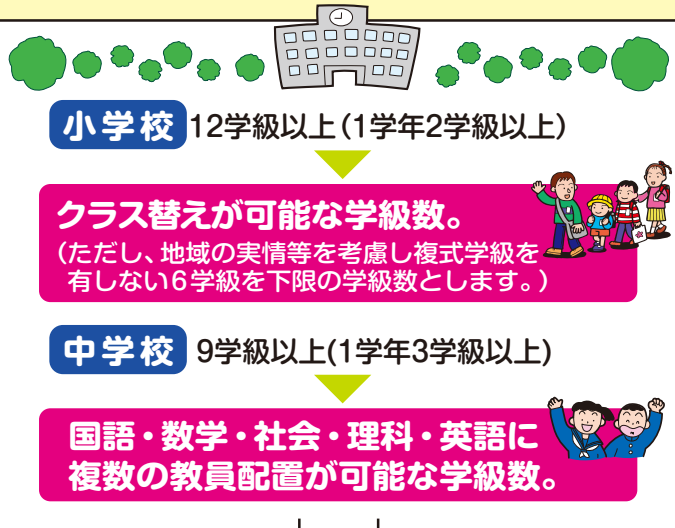


② 山武市における学校規模の基準



* 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針より

望ましい学級数



望ましい児童生徒数

小学校・中学校ともに

1学級あたり25～35人



通学距離



区分	通学距離
小学校	おおむね 4 km以内
中学校	おおむね 6 km以内

複式学級の取り扱い

複式学級の授業では、同学年の児童の多様な考えに触れる機会が少なくなることや、学習指導・生活指導上の問題もあります。
児童生徒への教育効果を考え、複式学級は解消することとします。



③ 基本計画の考え方



本計画は学校の小規模化、過小規模化が進む中で、子供たちにとってより良い教育環境を提供していくため、国で定められている適正規模に近づけていくことを基本としますが、本市の地理的条件・歴史的な背景・学校と地域の関わりあい等を考慮し、優先順位を以下のとおり決めました。



小学校→複式学級の解消

複式学級になっている学校及び複式学級が見込まれている学校の統合を優先します。それ以外の学校は、当面の間存続し、小規模校の課題解決に努めます。

中学校→学校運営の改善

単学級の解消・部活動の活性化・教員配置の充実を念頭におき、生徒数を勘案し優先的に統合を進めます。

※複式学級の解消や老朽化による建て替え以外で、保護者や市民から統合に理解が得られた場合は、統合の準備を進めていくこととします。
※建物の老朽化に伴い建て替えが必要となる学校については、財政状況や学校施設整備計画を踏まえ、統合時期を検討していくこととします。



④ 児童生徒数・学級数の推計と計画のスケジュール

【前期計画:平成28年度～平成37年度】



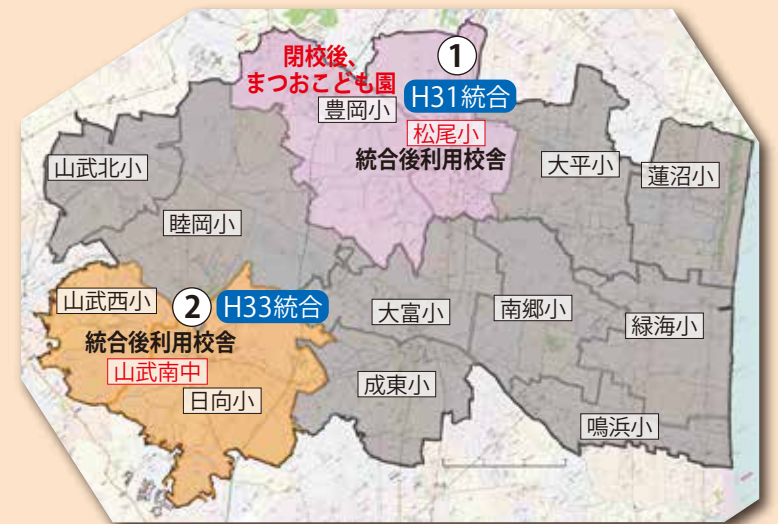
※～○○○～ → 統合シミュレーションによるイメージです。

① 豊岡小学校と松尾小学校の統合 ～郷土を愛する心を大切に 豊かな人間関係の中で充実した教育活動が期待されます～

豊岡小学校の複式学級の問題を優先的に解消するために、学校施設の規模及び中学校区の関連から、松尾小学校と統合します。統合年度は平成31年度、統合後の学校位置は松尾小学校とします。豊岡小学校の閉校後、校舎を改修し、まっおこども園として使用します。

児童数・学級数の推計	統合年度の推計 (H31)	児童数							学級数						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
	豊岡小	5	7	5	11	7	7	42	1	←	←	←	←	←	4
学級数の推計	松尾小	29	26	30	31	42	40	198	1	1	1	1	2	1	7
	統合後	34	33	35	42	49	47	240	1	1	1	2	2	2	9

スケジュール		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
	統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会(仮称)の設置	新小学校開校				
	施設整備				松尾小解体・新校舎建設工事 建て替えに伴い松尾中へ仮移転	新校舎スタート		
	跡地利用			豊岡小閉校	改修工事	まっおこども園開園		

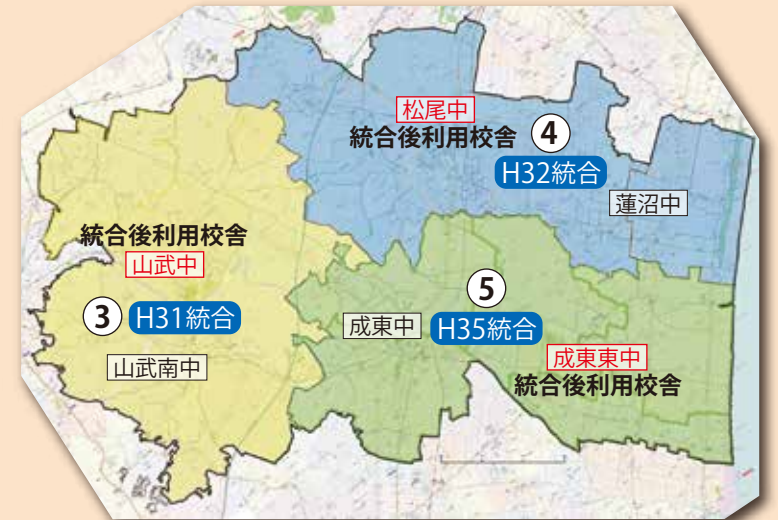


② 日向小学校と山武西小学校の統合 ～親近感のある学校運営で 児童・教職員の一体感が高まった教育活動が期待されます～

平成33年度から複式学級を有することが見込まれる、山武西小学校の問題を優先的に解消するために、地域性や通学距離を考慮し日向小学校と統合します。統合年度は平成33年度、統合後の学校位置は山武南中学校とし、閉校後に校舎を改修して使用します。

児童数・学級数の推計	統合年度の推計 (H33)	児童数							学級数						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
	日向小	30	29	13	32	25	31	160	1	1	1	1	1	1	6
学級数の推計	山武西小	9	9	7	10	19	17	71	1	←	←	←	←	←	5
	統合後	39	38	20	42	44	48	231	2	1	1	2	2	2	10

スケジュール		H30	H31	H32	H33	H34
	統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会(仮称)の設置	新小学校開校		
	施設整備	山武南中閉校	改修工事 山武南中			
	跡地利用			日向小・山武西小閉校	跡地利用について検討	



③ 山武中学校と山武南中学校の統合 ～地域の絆を強め 整った学習環境の中で躍動的な教育活動が期待されます～

教科担任制に必要な教員を複数配置できる学級数を確保し、山武南中学校の1学年単学級(平成32年度見込み)を解消するために、地域性や通学距離を考慮して2校で統合します。統合年度は平成31年度、統合後の学校位置は山武中学校とします。

生徒数・学級数の推計	統合年度の推計 (H31)	生徒数				学級数			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
	山武中	75	52	70	197	2	2	2	6
学級数の推計	山武南中	42	47	49	138	2	2	2	6
	統合後	117	99	119	335	3	3	3	9

スケジュール		H28	H29	H30	H31	H32	H33
	統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会(仮称)の設置	新中学校開校			
	施設整備		授業や部活動に必要な施設の整備				
	跡地利用			山武南中閉校	改修工事 山武南中	新小学校開校	

④ 蓮沼中学校と松尾中学校の統合 ～新たな出会いで未来を拓き 創造的な教育活動が期待されます～

教科担任制に必要な教員を複数配置できる学級数を確保し、蓮沼中学校の全ての学年が単学級となっている状況を解消するために、施設規模を考慮して2校で統合します。統合年度は平成32年度、統合後の学校位置は松尾中学校とします。

生徒数・学級数の推計	統合年度の推計 (H32)	生徒数				学級数			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
	蓮沼中	27	31	29	87	1	1	1	3
学級数の推計	松尾中	85	61	65	211	3	2	2	7
	統合後	112	92	94	298	3	3	3	9

スケジュール		H29	H30	H31	H32	H33
	統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会(仮称)の設置	新中学校開校		
	施設整備			松尾中校内に松尾小の仮設校舎設置		
	跡地利用			蓮沼中閉校	跡地利用について検討	

【後期計画:平成38年度以降】



後期計画については、今後の児童数の推移や校舎の老朽化等の状況により、前期計画の後半(平成36年度)に統合年度等を検討することとします。

～基本方針における学校規模適正化・適正配置の枠組み～

- ① 成東小と大富小の統合
- ② 南郷小と緑海小と鳴浜小の統合
- ③ 睦岡小と山武北小と統合
- ④ 蓮沼小と大平小の統合



⑤ 成東中学校と成東東中学校の統合 ～新たなスタートで 活力があり魅力あふれた教育活動が期待されます～

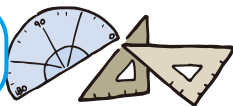
成東中学校の校舎の老朽化を解消し、教科担任制に必要な教員を複数配置できる学級数を確保するために2校で統合します。統合年度は平成35年度、統合後の学校位置は施設状況を考慮して成東東中学校とします。

生徒数・学級数の推計	統合年度の推計 (H35)	生徒数				学級数			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
	成東中	60	70	64	194	2	2	2	6
学級数の推計	成東東中	99	81	72	252	3	3	2	8
	統合後	159	151	136	446	4	4	4	12

スケジュール		H32	H33	H34	H35	H36
	統合関係	実施計画策定	統合準備専門部会(仮称)の設置	新中学校開校		
	施設整備		授業や部活動に必要な施設の整備			
	跡地利用			成東中閉校	跡地利用について検討	



⑤ 基本計画の期間



全体計画

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38 以降～
計画	山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画【前期計画】（10年間）										【後期計画】 (見直し・策定は平成36年度)
	長期間を要する取り組み										

基本計画の期間は前期計画と後期計画に区分し、前期計画は新市建設計画及び財政計画との整合性を図り、平成28年度から平成37年度までの10年間として学校の規模適正化・適正配置を進めていくこととしました。後期計画は平成38年度以降の計画として、今後の児童数の推移や校舎の老朽化等の状況を勘案し、統合時期や優先順位を検討していくこととします。



⑥ 基本計画(前期計画)の進め方



1 実施計画の策定

基本計画を進めていくにあたり、対象となる学校ごとに個別の実施計画を策定して取り組むこととします。



策 定 時 期

それぞれの学校区の特性を踏まえながら、学校施設の整備計画やスクールバス運行計画といった具体的な施策や事業について、目標年次も視野に入れながら策定することとします。

内 容

- 実施計画は、概ね次の内容について策定します。
- 対象校・計画期間・通学区域
 - 統合準備専門部会(仮称)における調整事項
 - 学校規模適正化・適正配置に向けたスケジュール
 - 学校規模適正化・適正配置にあたって配慮すべき事項

策定とその推進

実施計画の策定とその推進にあたっては、その計画内容について対象校の保護者や地域の皆様に対して丁寧な説明を行うとともに、意見・要望を十分に踏まえ、理解と協力を得て策定し推進していきます。

2 統合準備専門部会(仮称)の設置

学校の統合にあたり、新設校を円滑に開校するため概ね開校2年前より、対象校ごとに関係校の保護者、教職員、地域の皆様等で構成する「統合準備専門部会(仮称)」を設置し、統合に関する諸課題について下段の部会を設置し、部会単位での協議のもと、十分な理解と協力を得ながら進めていきます。



総務部会

- ・学校名称、校歌、校章等
- ・式典行事の計画等(開校式・閉校式)

学校運営部会

- ・学校教育目標、教育指導計画等
- ・校則、制服、体操服等
- ・児童生徒、教職員交流事業等、学校行事

PTA・通学部会

- ・PTA組織編制(規約・役員の選出等)
- ・通学路等の安全対策、スクールバス運行方法

施設整備・伝統継承部会

- ・学校跡地利用
- ・移転計画(学校歴史等の継承、備品確認等)

3 学校規模適正化・適正配置を進めるにあたっての考え方

教育環境整備

- 児童生徒、保護者、教員の学校間における交流事業を積極的に実施し、統合が円滑に実現できるよう努めてまいります。
- 特別支援学級については、統合学校に引き続き設置するとともに、設備面を含めた教育環境においても、十分配慮していきます。
- 統合前から在籍している教員を、統合後の学校にも一定数配置します。

通学環境整備

- 児童生徒の安全性が確保できる通学路を選定していきます。
- 遠距離通学については、スクールバス等の交通手段を検討します。
- 学校の実情に併せた運行経路や運行計画等を、統合準備専門部会（仮称）で十分検討していきます。

通学区域

- 隣接する学校の通学区域の線引きの見直しについても検討します。
- 指定校変更の承認は、申請に基づき学校指定に関する弾力的な運用を行ないます。

学校施設整備

- 必要に応じ効率的な整備を行うとともに、学校施設整備計画で予定している工事について見直しを図ります。
- 学童クラブ施設については、学校の規模適正化・適正配置に合わせて整備を実施していきます。

閉校後の学校施設・跡地利用

- 地域の意向やニーズに十分配慮し、有効活用されるよう統合準備専門部会（仮称）で検討していきます。
- 庁内に学校跡地利用検討組織を設置し、学校跡地利用計画（仮称）を策定していきます。

基本方針及び基本計画の見直し

- 児童生徒数の将来推計、教育制度の改正、市の財政状況、社会情勢の変化等により、計画に影響を与えるなどの変化が生じた場合は、必要に応じて適宜見直しを図ります。

規模適正化・適正配置に向けて

学校は、地域の拠点施設であるとともに災害時の避難場所であるなど、地域にとって重要な施設であることから、学校の規模適正化・適正配置は、保護者、学校関係者、地域の皆様と教育委員会がより良い環境を整えるための共通の視点を持って話し合い、理解を得ながら進めていきます。

また、前期計画に基づき新たに開校する学校へ円滑に移行でき、児童生徒がより良い教育環境の中で学校生活が送れるよう、保護者や地域の皆様の意見や要望を十分踏まえながら開校に向けて準備を進めてまいります。



このパンフレットに関するご意見・お問い合わせ

山武市教育委員会 教育総務課 総務企画係

〒289-1324 山武市殿台279番地1

TEL: 0475-80-1431 FAX: 0475-80-1400

E-mail: kyoikusomu@city.sammu.lg.jp